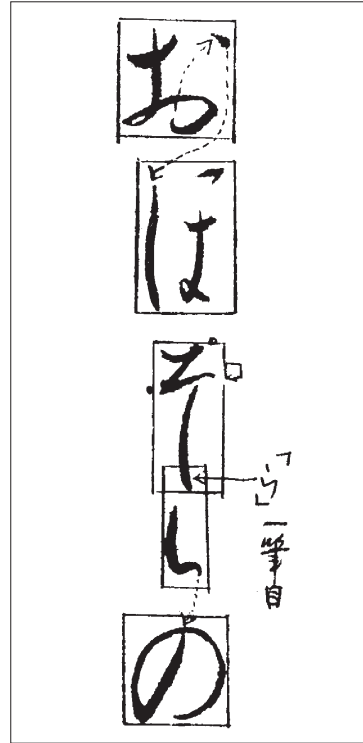


◆半紙一行たて書きに臨書して下さい。出品料430円

元永本古今集(316)



- 1、字句「おほそらの」
- 2、形式「半紙をたてにし、中央に一行で臨書。落款は左余白に「〇〇臨」と本文に添う大きさで。
- 3、概観「課題「おほそらの」は、連綿することなく一文字ずつ等間隔に、しかも簡素に書かれています。これを「放ち書き」と呼びます。「放ち書き」は元永本古今集の大きな特色となっています。一文字一文字がほぼ単体として独立して書かれています。これらの文字の気分はつながっています。これを称して『空間連綿』と呼ぶことがあります。書きながら、目に見えないつながりを体感してほしいと思います。
- 4、学習のポイント：放ち書き(その一)

◎どの文字も、たて長の四角形に収まるイメージで書くこと。

「お」一筆目は側筆で入筆。二筆目以降は筆を立てる。二筆目から三筆目の点へ向かう線は、少し筆圧と勢いをかけ、その力で高い所に点を打つ。「ほ」は「お」の点から続けるように入筆。筆圧をかけながら下に引く。長方形を意識し、二筆目の位置を確認する。三筆目の終筆は軽くすくい上げるように運筆し鋒先で静かに入筆する。むすびは小さ目に。「そ」で軽く止まり方向を確認して運筆。□で力を抜き、最終筆は長目に引く。この線に「ら」の一筆目の「点」が含まれていることを意識する。「ら」は「そ」に含まれた一筆目をうけ静かに入筆し、筆圧をかけながら下に引き軽く止め、上方に小円を描くようにして力を抜く。「の」は「ら」の終筆を空間で続ける気持ちで入筆。たて長の孤を直筆で筆圧を一定にして引く。

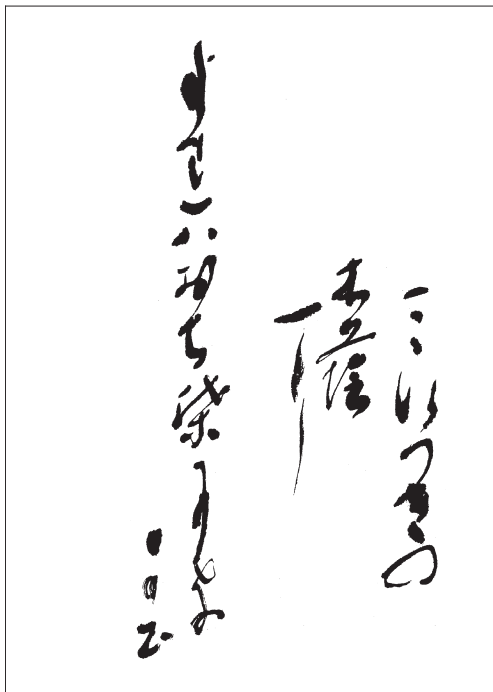
半 紙 課 題 (予 告) (六月二十二日締切)

平岡華雪先生書 真玉は泥中に異なり(禪林類聚)



訳：名珠は泥中にあっても光を失わない。

平岡華雪先生書 水無月の木蔭によれば落葉かな(水芭)



研究部課題

(五月二十二日締切)

(課題)

藝

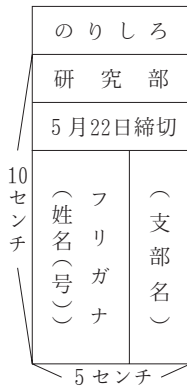
▽注意

- (1) 半紙タテ・ヨコ自由。
- (2) 書体自由。
- (3) 落款は「青藤書」と書き入れること。

雅印は無用。(出品者の本名又は雅号を入れた作品は失格)

▽出品要項

- (1) 資格—推薦、準推薦、推薦合格者
(漢字・随意・かなのいずれかで推薦格以上であればよい。同人、準同人も歓迎)
- (2) 締切—五月二十二日必着
- (3) 発表—書誌七月号誌上
- (4) 出品料—九二〇円同封
- (5) 出品方法



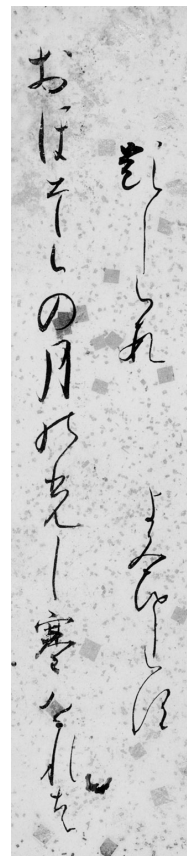
ア、出品は一人一点とする。
イ、私製の出品票(タテ10センチ×ヨコ5センチ)を作品の左下にぶら下げて貼付する。

※出品票は必ず楷書で正しく、ハッキリと記入すること。

※名簿作成の都合上、姓名(号)にはフリガナをつけて下さい。

※バーコード券は不要。

元永本古今集



条幅随意部として

『題しらす数 よみひとしらす須』

おほそらの月能光し寒介れ者』

と、半切二行に臨書する。「放ち書き」部分と連綿部分の対比を学ぶ。

落款は「〇〇臨」と調和するように入れる。

※随意部参考(半紙・条幅)としてもご活用下さい。抜粋可。

随意部半紙は無料。随意部条幅は一枚目無料、二枚目から五四〇円。

(1)

一字書(五月二十二日締切)

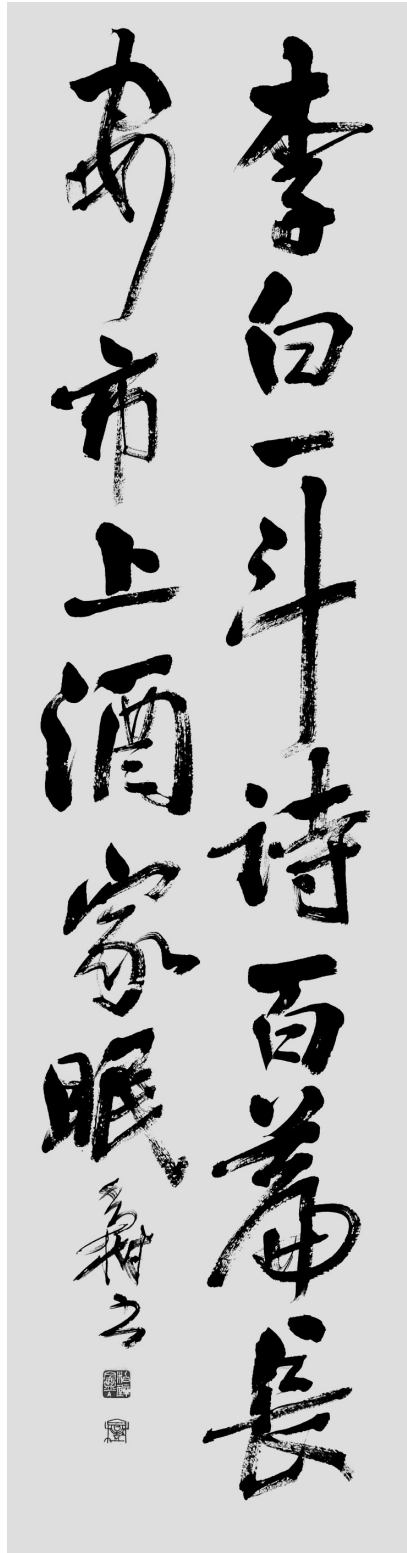
課題

富

- (1) 書体自由
- (2) 半紙タテ ※ヨコは中止
- (3) 落款は余白に調和を工夫し書き入れる
- (4) 出品料 四三〇円
- (5) バーコード券貼付 太枠内の臨昇の隣の空欄に一字と記入 段級は無記入

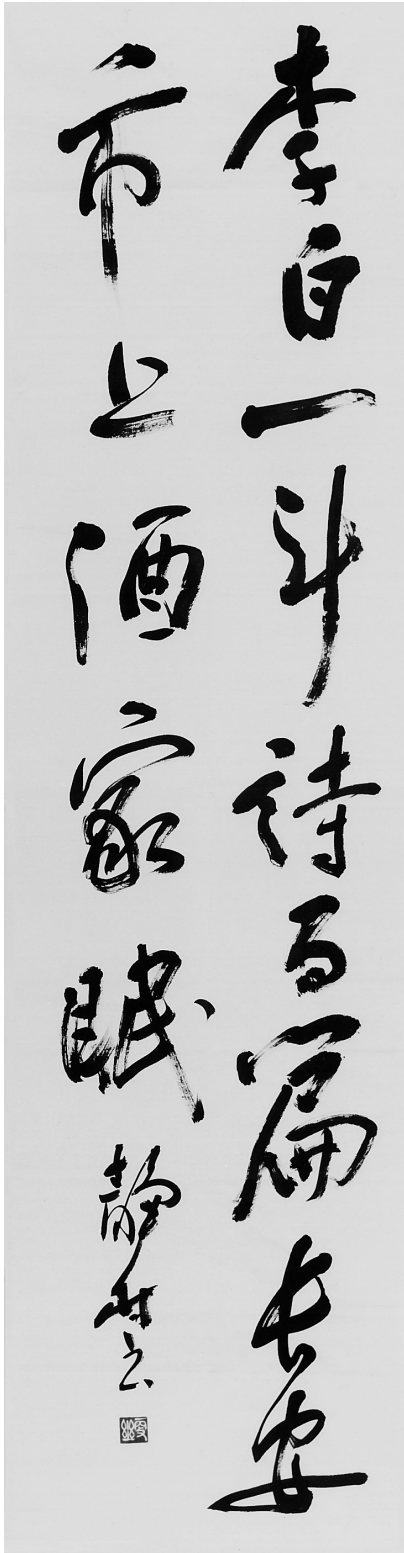
A
高橋香樹会長書

李白一斗詩百篇 長安市上酒家眠 (杜甫)
李白は一斗にして詩百篇、長安市上酒家に眠る



B
鈴木静村先生書

今回は「太細」の表出を心懸けて書いてみました。条幅部の作品を拝見していると、線質が一定に書かれている作をよく見掛けます。「太細」の表出では、用筆的には開閉・緩急・抑揚のリズムの中で、突き・弾ませ・転折等により太細の自然な表出が生まれます。墨継ぎは「百」と「上」です。



李 左への傾き白は右に寄せ。一 突いて開鋒。斗 二画目は点の意識、手本のクネリは真似ないように。詩 末画の点は下方に小さく。篇 一画目は古典では省くことが多い。長安 一字として続け末画は長くして字幅。市 一画目は点の弾きで「市」ではない。酒 墨継ぎ、三水偏は突いて入り、一気に二〜三画へ。家 ウ冠大きく。眠 斜画の突き出しと点の字体は古典ではよく使われている。訳：李白は一斗の酒を飲むうちに、百篇の詩ができあがるほどであり、いつも長安市中の酒家で酔っぱらっては眠っている。

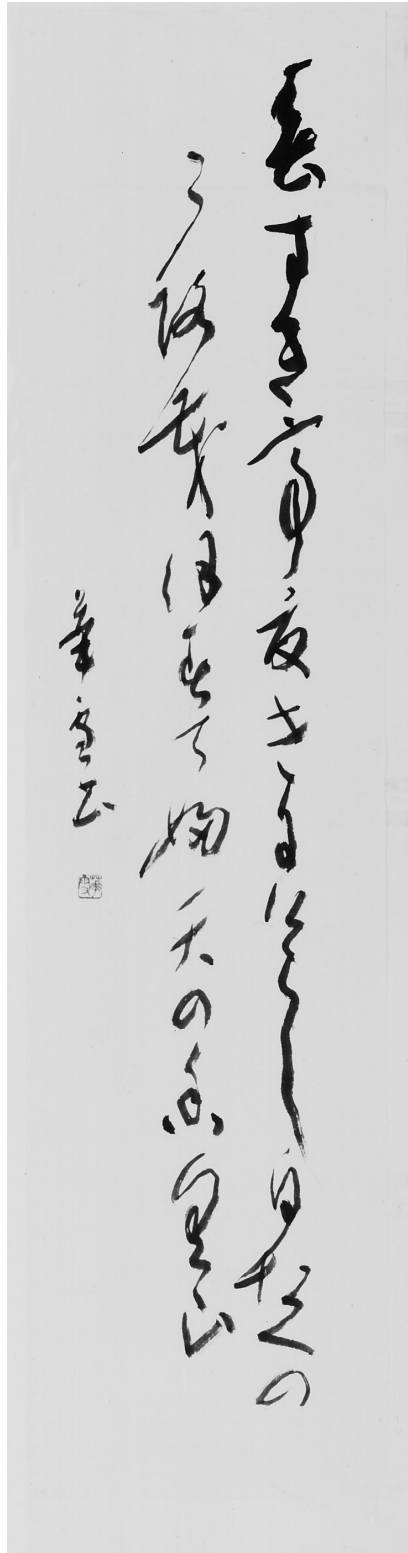
予告 (六月二十二日締切) 蝸牛角上争何事 石火光中寄此身 (白樂天)

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条漢を○で囲み(1)と記入する。)
 - ・二枚目からの出品 (バーコード券の条漢を○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料540円)

A

平岡華雪先生書

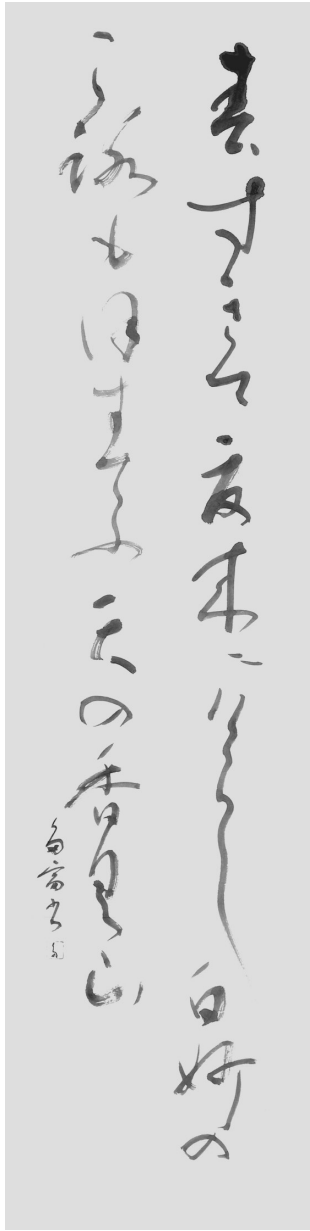
春すぎて夏きにけらししろたへの衣ほすてふ天の香具山(持統天皇)
春すき亭夏きル介らし白たへの小路茂保春て婦天の香具山



B

森多富先生書

春すきて夏来二介らし白妙の小路も保すてふ天の香具山



学び方

今月の華雪先生の作品は、二行書の行間をかなり狭めた構成となっています。何か寄り添う様な優しい印象を受けます。
持統天皇のこの歌は、大変ポピュラーで色々な書展で何度も目にしました。それは多くの方々に愛唱されているからではないでしょうか。誰も見た事がないにもかかわらず、万葉の大らかな情景を思い起こさせます。
今回のB作品は、青墨・長峰で取り組みました。濃墨に比べ淡墨は、筆のコントロールが易しいと思います。筆の開閉・強弱・緩急等を意識して、作品の流れや動きに変化をつけました。印刷すると墨色の色合いがわかりにくいと思いますが、青墨は、仮名によく馴染むと思います。作品制作の一つのアイテムとして用いてみてください。

予告(六月二十二日締切)

白露の玉もてゆへるませのうちに光さへそふ常夏の花(新古今和歌集)

新古今和歌集は、後鳥羽上皇の命によって編纂された勅撰和歌集です。その名の通り古今集を基盤として引き継ぎ、その上に和歌の新たな様式を確立することを目指したものです。院歌壇の歌人の多くの人が編纂に関わり、何十年にも渡って改訂が続いたという稀有な存在です。俊成によって提唱された幽玄の概念を、定家が発展させ「余情妖艶の体」を築き上げ、これが撰歌に反映されています。

- ◆注意 ・条幅部の出品は一人一点(バーコード券の条かを○で囲み(1)と記入する。)
- ・二枚目からの出品(バーコード券の条かを○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料540円)

北 沢 博 舟 先 生 書

半銭利路人乃虎。一鉤名餌吾其魚。(李通)
半銭の利路人乃ち虎、一鉤の名餌吾其魚。

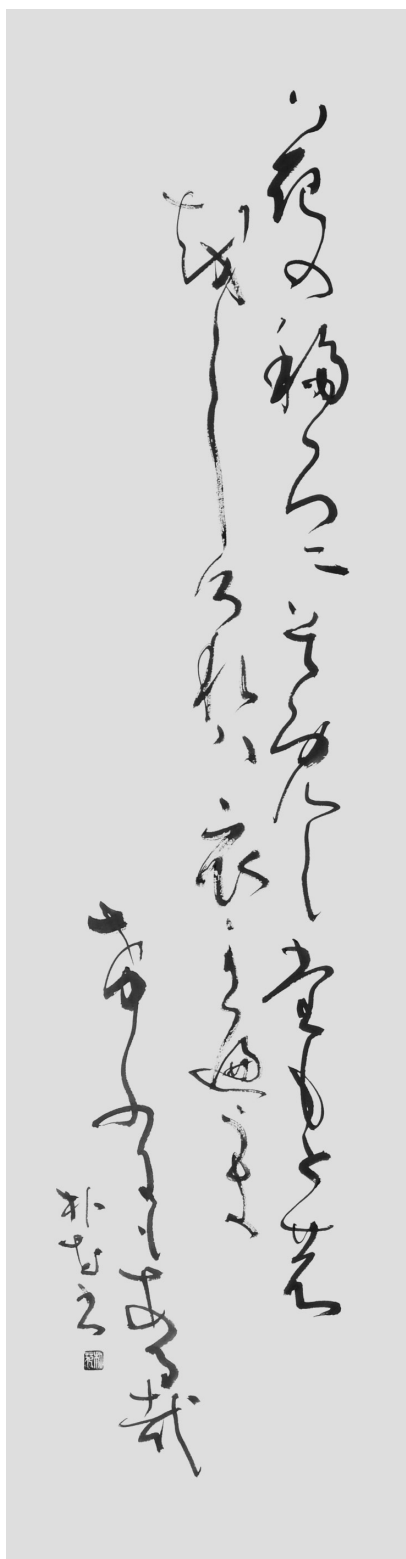


訳：一厘半銭の利益を争う点は人は虎よりも烈しい、一本の釣針にかかった名誉の餌は吾ながら魚にも似ている。

向 山 朴 花 先 生 書

花の色にそめし袂の惜しければ衣かへうきけふにもあるかな
花の移ろ二そ免し堂もと農越し介れ八衣可遍う支希ふるもある哉

(拾遺和歌集 源重之)

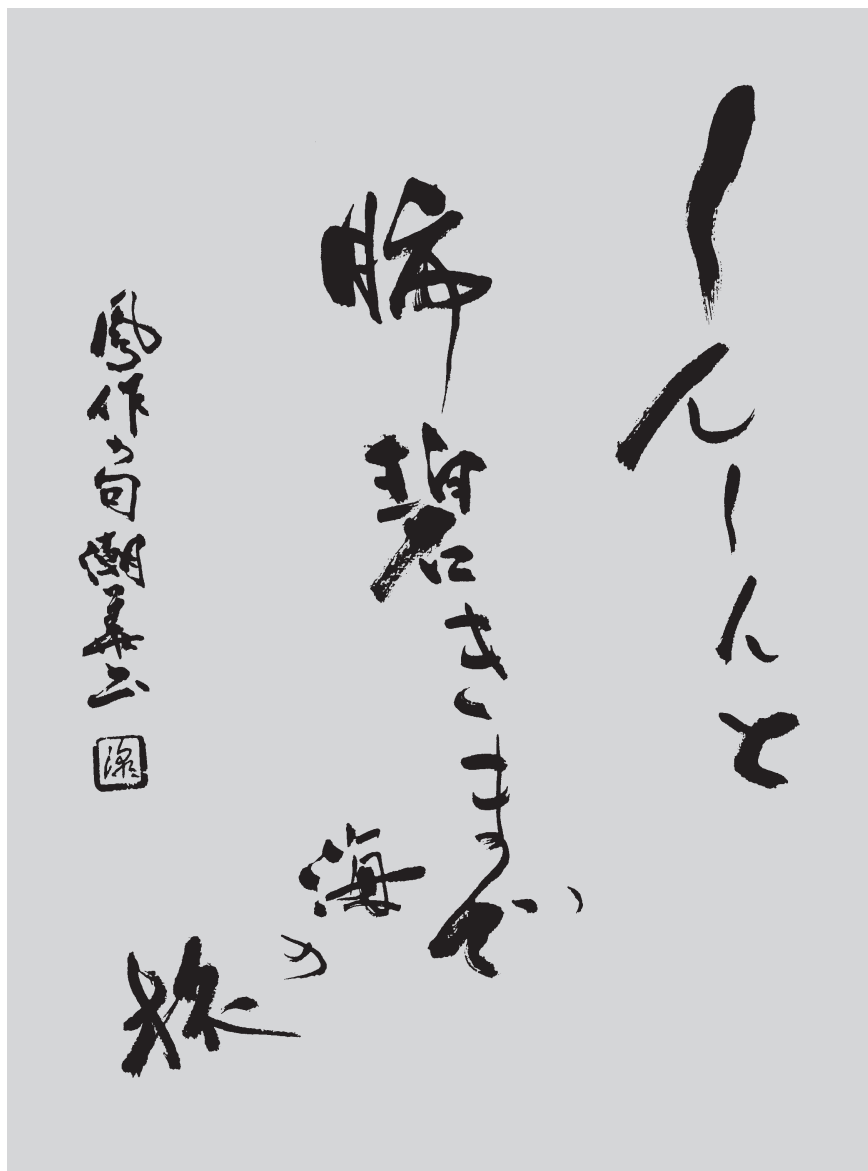


- ◆ 注 意
- ・条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条随を○で囲み（1）と記入する。）
 - ・二枚目からの出品（バーコード券の条随を○で囲み（ ）に何枚目か数字を記入する。出品料540円）

水貝潮華先生書

しんしんと肺碧きまで海の旅

篠原鳳作



今月の課題は、同じ文字の繰り返しをどのように表現するかを研究してみよう。

この句の魅力は「しんしんと」の沁み入る言葉と「肺碧きまで」の鮮やかな色感の融合にあります。それにはリズム感を持ち、紙面右上から左下へ向けて進んで行く構成にしてみました。その時に、「しんしんと」を口ずさみながら表現してみてください。そこには単調にならない工夫が必要です。私は

揺らぎながら文字の大小の違いで書いてみましたが、みなさんは色々な表現を試みて下さい。

篠原鳳作（一九〇五～一九三六）

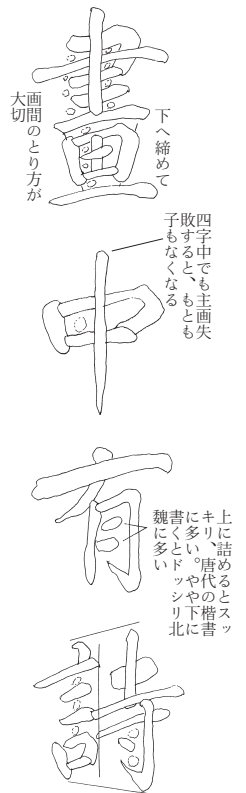
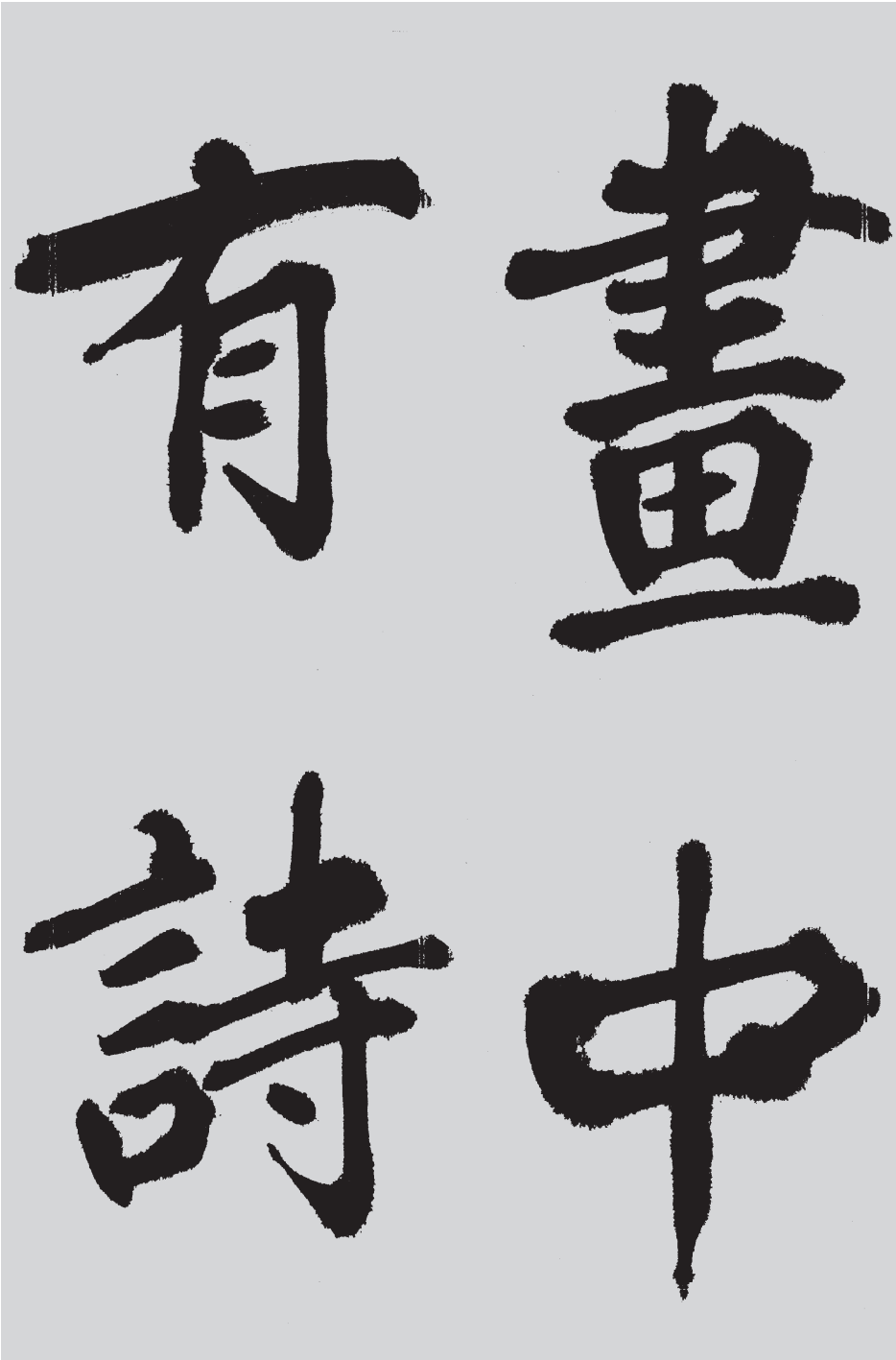
俳人。鹿児島市生まれ。沖縄や鹿児島の中学校で教鞭をとるかたわら、「ホトトギス」「天の川」に投句。吉岡禅寺洞に師事。「傘火」を共同創刊。晩年は新興俳句運動の、とりわけ無季俳句の有力な推進者となった。著作に「篠原鳳作全句文集」。

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙（3×4 cm位）に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。出品料540円。

- ①バーコード券右空欄に漢かと記入 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

平岡華雪先生書

画中に詩有り(東坡志林)
訳…絵の中に詩の趣をたたえている。

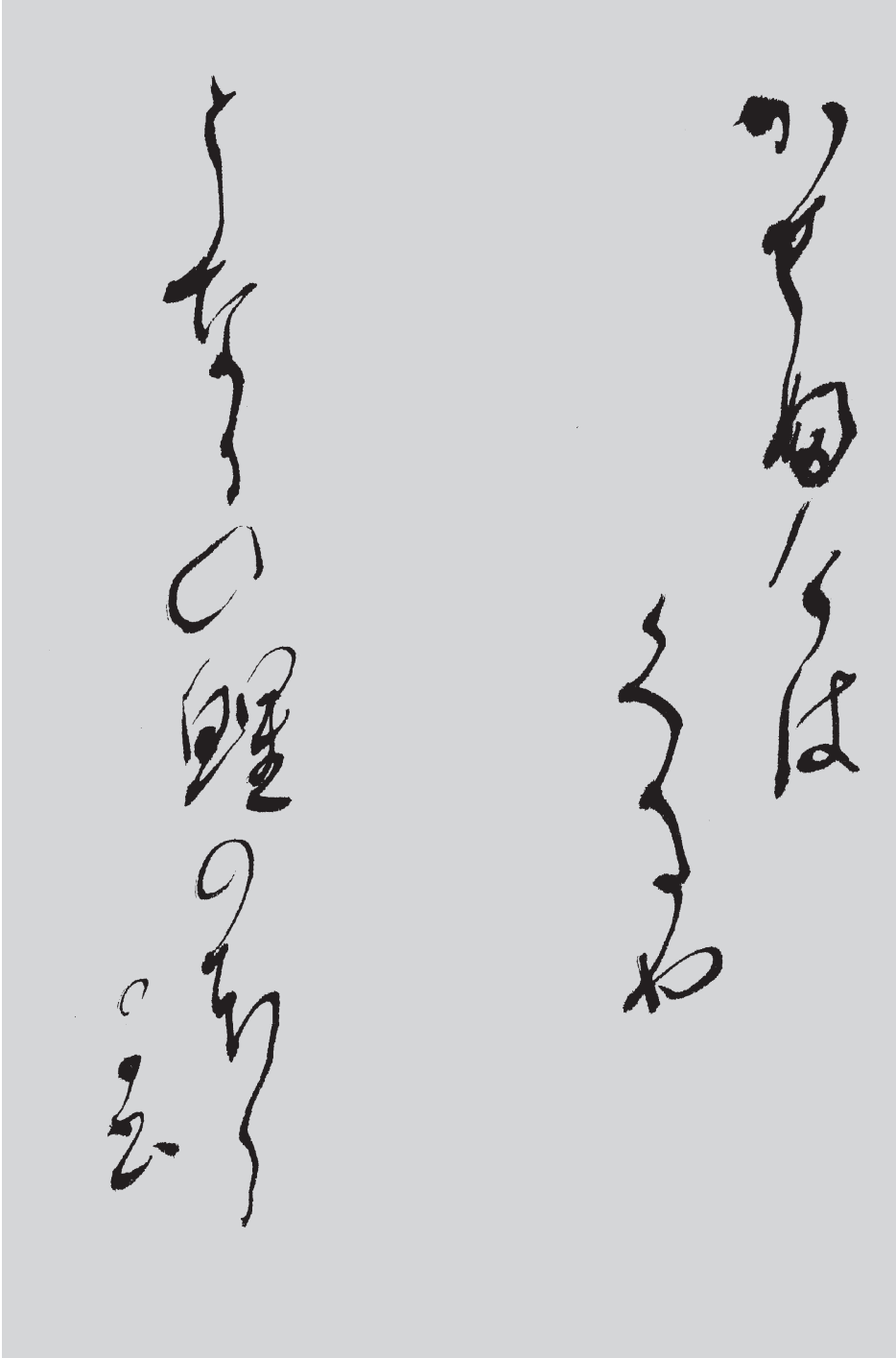


◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は430円。

- ①漢字部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

平岡華雪先生書

風吹けば来るや隣の鯉幟(虚子)
かせ婦介は久るやとなりの鯉の本り



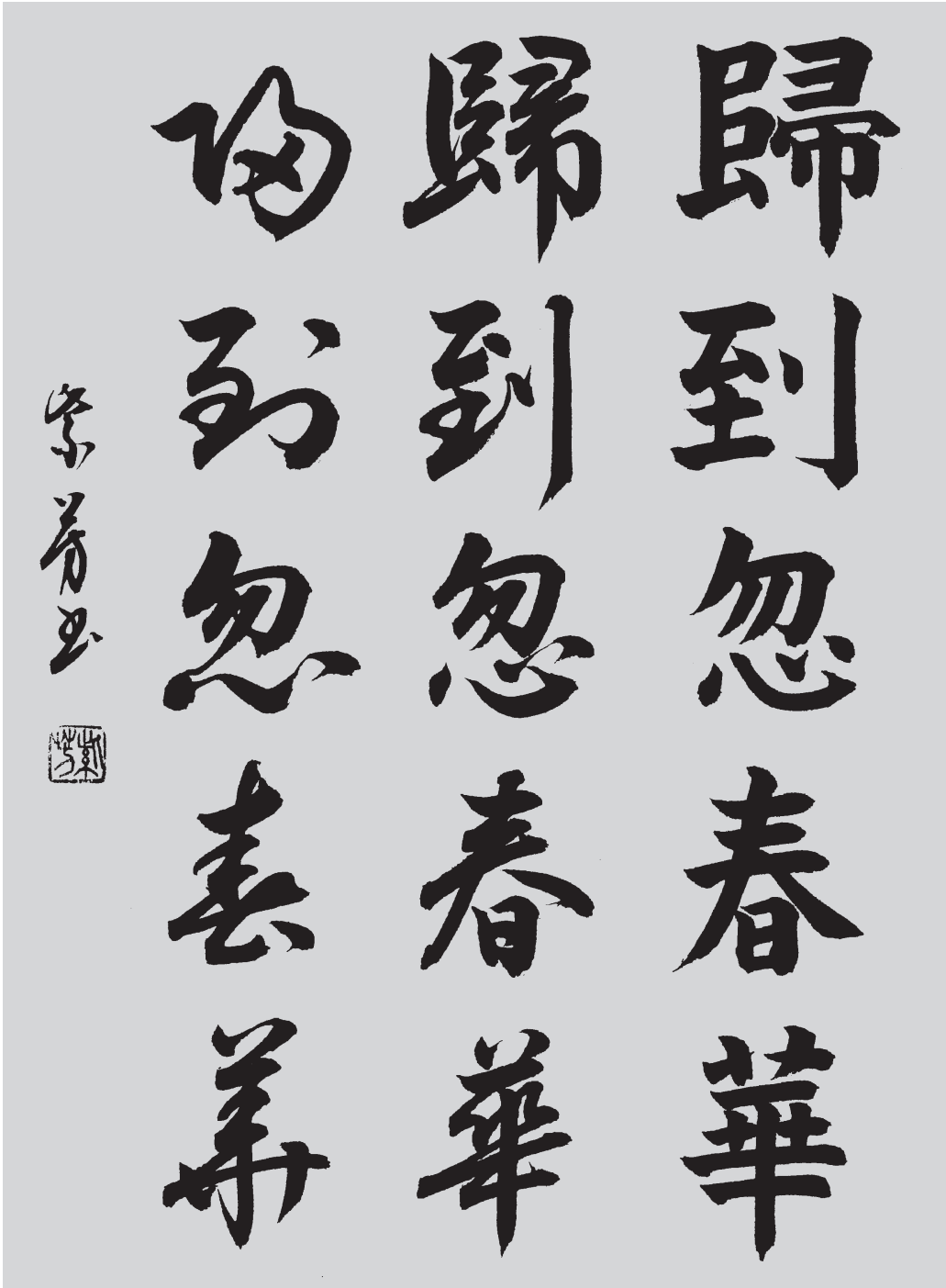
〈息の長い連綿について〉
右群・左群共、息の長い連綿がこの課題の注目点。「か―せ、せ―婦、る―や、と―な、本―り」が挙げられる。特に初歩段階では、うねり・速さ・傾き等、事前に採り出して部分練習を重ね、リズム感覚を充分把握することが大切、ぜひ習熟してほしい。

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は430円。

①かな部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

高橋紫芳先生書

歸到忽春華（杜甫）
かえ いた たちま しゃんか
歸りに到れば忽ちに春華



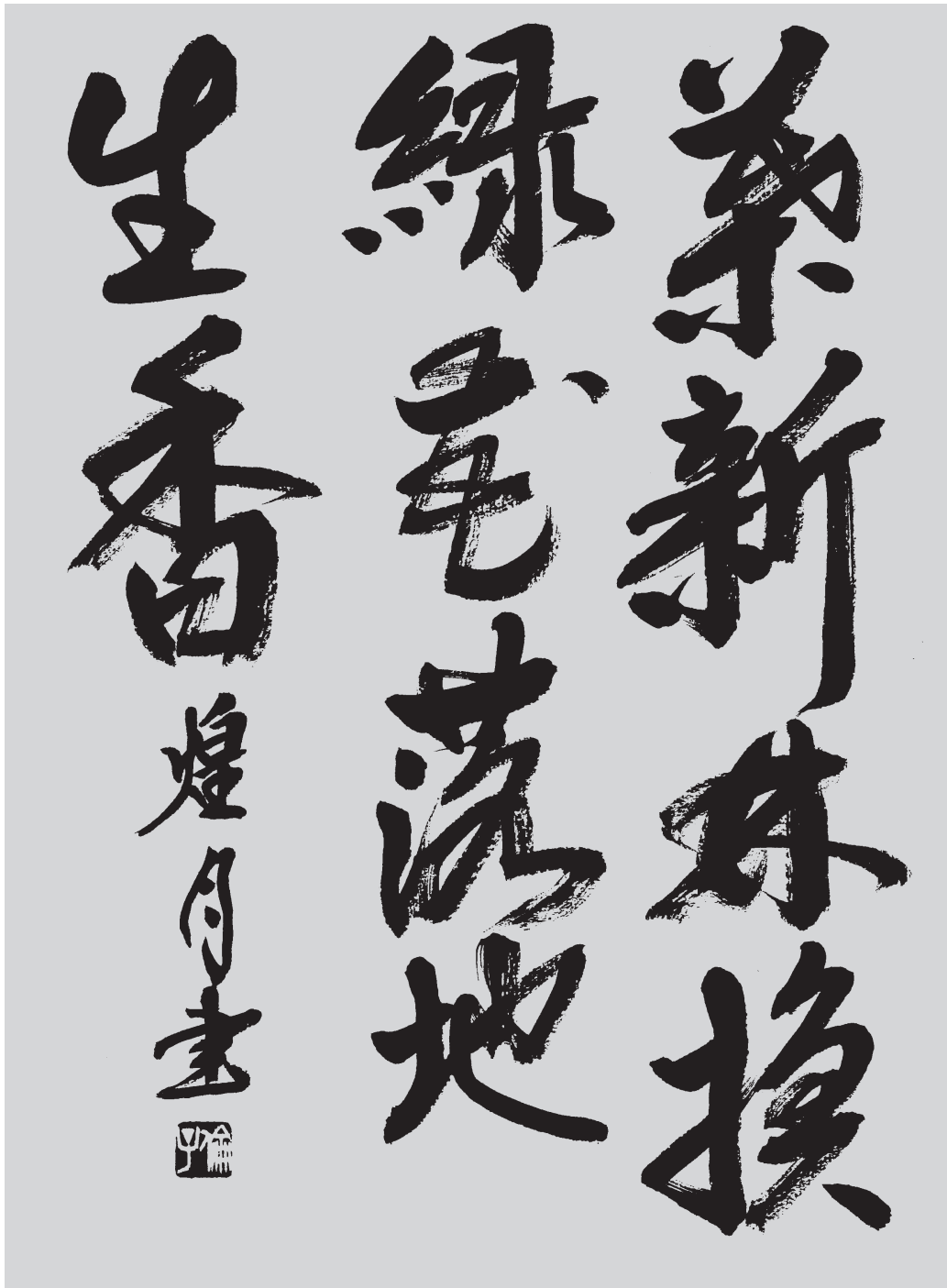
訳：そして帰ってみれば、あたりは花さく春景色と一変している。

1. 随意部参考として出品してください。 2. 会員外の出品料は430円。

随 意 部 参 考

町田 焯月 先生 書

葉新林換綠。花落地生香。(眞山民)
葉新はあらに林はし緑をに換かり、花はな落おち地ち香かを生しず。

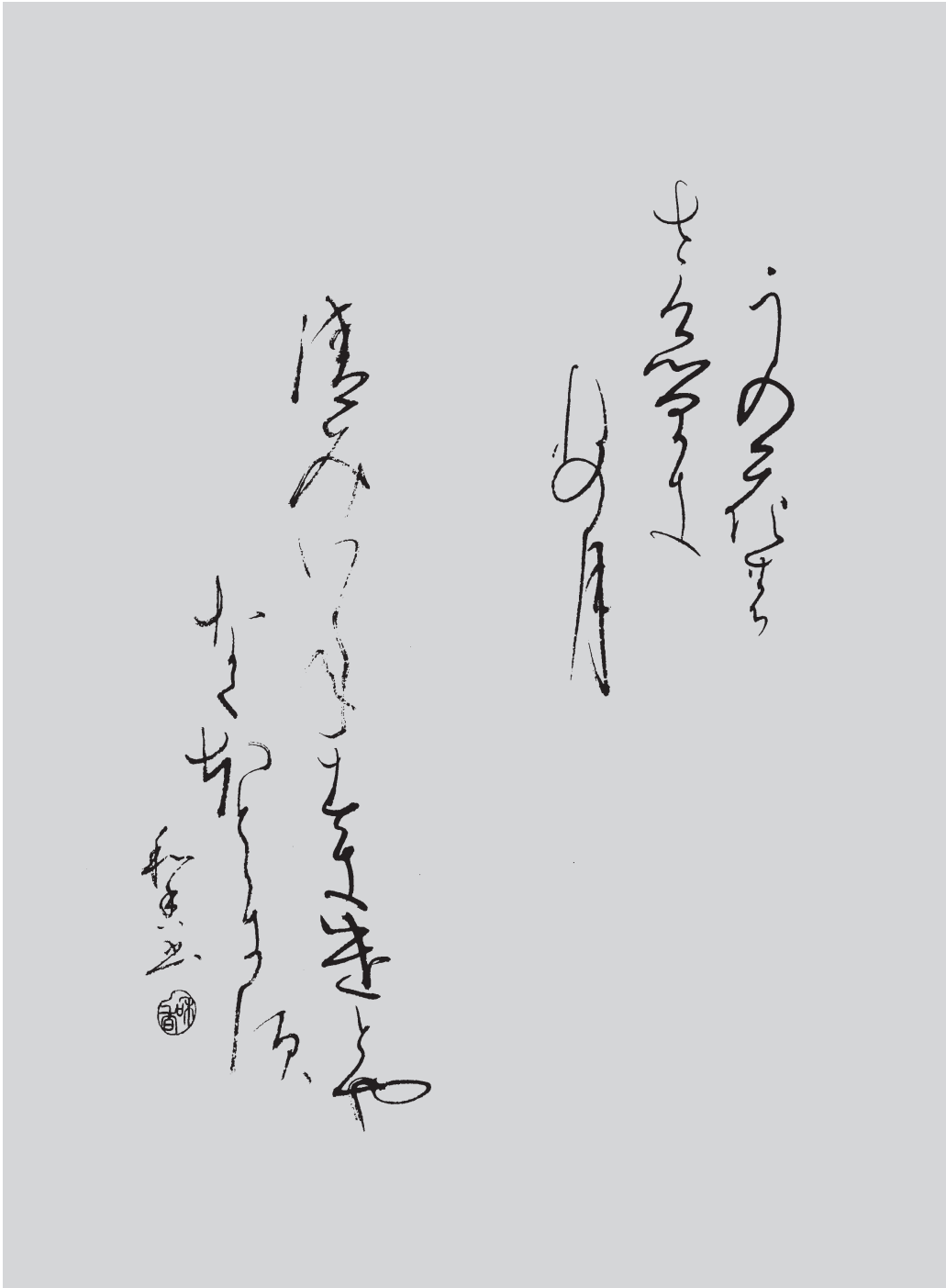


訳：葉新たに出て林は緑になり、花は散りしいて地上に香りが生ずる。

1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は430円

随 意 部 参 考

小林和香先生書



卯の花のさける垣根の月清みいねずきけとや鳴く郭公（後撰和歌集 読人しらず）
うの花農左介留可支ねの月清みい年春支遣とやなく本と、支須

1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は430円

稲畑 穂先生書

川上 香蓉先生書

課題 2 (初段階以下)

課題 1 (初段階以上)

正教授 創作部門(自運作品、自由形式、硬筆用紙使用)で出品。二名の審査員による合計点数で優秀作品掲載。審査料一、〇〇〇円

色彩の変わってゆく山を見るたび、
山は生き生きするのが、一番強く
生々しくするのが、浅間山である。

湖水は白く霞んでいた。京都の町
は北の方から流れ出した雲間からの
陽光に銀の光沢と淡い影が波のように
揺らめいて海のように思えた。

課題 1 (初段階以上)

湖水は白く霞んでいた。京都の町は北の方から流れ出した雲間からの陽光に銀の光沢と淡い影が波のように揺らめいて海のように思えた。

『志賀越みち』 伊集院静

◆注意

- (1) 自分の段級に合った課題を選択。
- (2) ペンまたはボールペン(黒色)を使用のこと。青インクは不可。
- (3) 段級欄は本人が記入(色は黒)はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位に)次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
- (5) 会員は無料・会員外は四三〇円
- (6) 昇試規定は裏表紙を参照の事。

課題 2 (初段階以下)

色彩の変わってゆく山を見るたび、山は生き生きするのが、一番強く生きているのが、浅間山である。

『浅間』 立松和平